

研究会の視点

- 単元構想を行う上で、教材研究をどのように行えばよいか
- 教師の『出』が適切であったか（子どもが自分たちの手で授業を展開し、つくっていくために）

1年2組（梅津級） 「おはなそだてちゃんぴおん」

【担任の意図】

お花のお世話をしながら気付いたことを伝え合い、よりやさしい気持ちでお世話を続けていきたいという思いをもつ。

【授業の様子】

お世話をしている時の子どもたちは、お花に話しかけたり、水をあげたり、気付いたことを教師や近くにいる友だちに話したりと、わくわくした気持ちで活動をしていた。伝え合う活動に入ると、どう伝えればよいか分からず、話す子が限られてしまった。



2年1組（堀内級） 「とべのまちとなかよし はっけんたい！」

【担任の意図】

伊勢町商店街で集めた情報を共有しあうことで、新たに調べたいこと、聞きたいことを見つけ、次の探検への意欲を高めたり、課題を明らかにしたりする。

【授業の様子】

伊勢町商店街で発見したことや聞いてきたこと、気付いたことなど、たくさんの情報を楽しそうに伝え合うことができていた。また、自分の体験を通して話をすることができていた。情報が多く次の展開に行く前に終わってしまった。



3年2組（丹下級） 「掃部山博士になろう！」

【担任の意図】

掃部山公園に行って発見したことや疑問を伝え合い、掃部山公園のこれまで気付かなかった情報を読み取ったり、今後何にどのように取り組んでいけばよいかを考えたりする。

【授業の様子】

前時に書いた付箋を使ったことで子どもたちがたくさん発言できた。また、友達の発言をよく聞いていた。「利用者にとって快適」とは何かを考えたいという気持ちはまだ薄く、発表で終わってしまった。理由をもっと言えると良い。



6年2組（遠山級） 「和菓子でとべを元気に！」

【担任の意図】

和菓子を食べたり、職人から聞いたりして情報収集したことから分かったことを話し合い、職人の技術の素晴らしさや思いが和菓子の魅力につながることに気づき、さらに追究してこうとする意欲を高める。

【授業の様子】

店の商品が変わっていることに気付いた子どもたちが撮影した写真を提示したことで、そこに込められた職人の思いについて考え始めた。じっくりと写真を深く読み取る時間を設け、写真の事実から根拠をもとにした話し合いができるとうよい。



講師の先生から

- 材の本質に迫っていくために、板書で視点をもって整理していく必要がある。(生活)
- 自分たちから「見つめ、考え、会話する」からこそ気づきの質が高まっていく。(生活)
- 活動目的がはっきりともてるように、単元の立ち上げを丁寧に行うようにする。(総合)
- 子どもたちの発言力を育てる。事実、根拠、具体を語れるように。(総合)